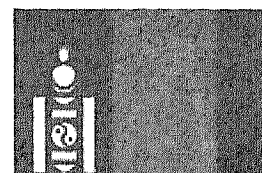


# 自分にもできる国際協力



Mongolia

埼玉県

吉村 珠美

川越市立高階南小学校

- 担当教科：小学校全科
- 実践教科：国語，外国語活動
- 時間数：4時間
- 対象：小学5年生
- 対象人数：35名

## 〔1〕授業実践のテーマ・目的

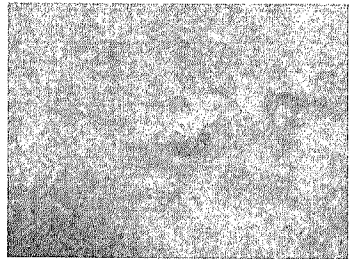

- ・世界には様々な生活がある事を知ると共に、自分達の生活を振り返る。
- ・自分達と世界の人々や出来事には繋がりがある事を実感する。
- ・何か新しい事を始める事だけではなく、自分達の生活を見直し変えようという気持ちが国際協力の第一歩であることを知り、自分にできる事を考え、実行していく態度を養う。

## 〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	<p><b>【日本とモンゴルの違いと同じ】</b> 世界には様々な生活がある事を知り、当たり前だと思っていた自分達の生活について考える。</p> <p>(外国語活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントでモンゴルの写真を見せる。</li> <li>・ゲルにあるものをあてる〇×クイズをする。</li> <li>・遊牧民の家族の一日の様子を紹介する。</li> <li>・自分達の生活と似ている事、違う事を話し合う。</li> <li>・自分達の生活を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・モンゴルの国旗</li> <li>・ゲルの模型</li> <li>・デール(民族衣装)</li> <li>・遊牧民の一日を時系列でまとめたプリント</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
2	<p><b>【ゴミ問題を通して考える自分と世界の繋がり】</b> 世界で起こっている環境、ゴミ問題は自分とも関わりが深いという意識を持つ。</p> <p>(国語)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モンゴルのウランバートル、ボルガンの街の様子を知る。</li> <li>・ウランバートル、ボルガン、遊牧民のゴミ処理の仕方について知る。</li> <li>・青年海外協力隊の話を伝える。</li> <li>・感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・国語科教科書</li> </ul>
3	<p><b>【貧困のサイクルから考える自分にできる国際協力】</b> 様々な環境で暮らす子ども達の現状を知り、自分達ができる国際協力の方法について考える。</p> <p>(外国語活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォトランゲージで2枚の写真の共通点を考える。</li> <li>・貧困のサイクルの説明をする。</li> <li>・貧困を断ち切る方法を考える。</li> <li>・青年海外協力隊による孤児院での活動の紹介をする。</li> <li>・感想を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤児院とストリートチルドレン、青年海外協力隊の方の写真</li> <li>・貧困カード(黒板用)</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
4	<p><b>【富の分配から考える自分にできる国際協力】</b> 何か新しい事を始める事が国際協力ではなく、自分の生活を見直し変える事ことから始まる事に気づき、自分なりの国際協力の第一歩を考える。</p> <p>(外国語活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界がもし100人の村だったら」ワークショップを行う。</li> <li>・フォトランゲージを行う。</li> <li>・富の分配の不公平を無くす方法を考え、発表する。</li> <li>・青年海外協力隊のインタビューを見る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界地図</li> <li>・役割カード</li> <li>・飲み物</li> <li>・紙コップ</li> </ul>

**(3) 授業の詳細**

**1 時限目：【日本とモンゴルの違いと同じ】**

時間	学習内容	指導上の留意点
導入 10分	①モンゴルの国旗、国の位置を確認する。 ②空から撮った草原の中にポツンとあるゲルの写真を見せ、そこでの生活を想像する。 ③ゲルの近くの写真、模型を見る。 「ゲルの中にあるものはどれクイズ」 1、電気 2、ラジカセ 3、テレビ 4、ストーブ 5、携帯電話 6、自転車 7、たばこ 8、動物の骨 9、写真	・モンゴルの遊牧民が暮らしている家であることを確認する。 
展開 10分	④1～9のもの全てがゲルの中にあり、どのように使われているか、また、ゲル全体の様子も画像を通して知る。 	・家の中にある物は何か考えさせる。 ・日本とは全く違う生活をしているモンゴルでも、日本と同じように電化製品を使い生活していることで、同じところもあることに気付かせる。 ・写真飾っていることから家族に対する思いに気づかせたい。 ・ゲルで生活する3人の家族を紹介する。 ・モンゴル人と日本人は違いだけではなく、家族を大切にしている、近所づきあいもある等、似ている所があることに気づかせたい。
15分	⑤ゲルに住む人達の一日の生活の流れ、その様子の写真を見て、日本と比べて違う所、同じ所を発表する。(添付資料1) ・家族が協力し合っている。 ・子どもがお手伝いをよくする。	
10分	⑥当たり前だと思っていた自分達の生活を振り返り、感想を書く。	

**児童の感想**

- ・モンゴルは日本に似ていて、電気や自転車、それに携帯電話もあるなんてすごびっくりした。
- ・モンゴルの家族はみんなが協力していて日本とは違う生活をしていてびっくりしました。
- ・環境が違うので色々な工夫をしていました。
- ・暮らしは日本が豊かだけど家族の大切さは変わらないと思った。
- ・モンゴルの人たちもお手伝いをしていたので、優しいんだなと思いました。

**2 時限目：【ゴミ問題を通して考える自分と世界の繋がり】**

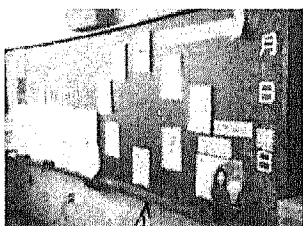
時間	学習内容	指導上の留意点
導入 10分	①前時の授業で書いた、感想を読む。	・日本にも昔は物を大切にする習慣があった、他国はゴミを出さない工夫をしているという前時の学習を振り返る。
5分	②各自、「環境問題」についての課題を持つ。	・課題が思いつかない児童は、前々時に班で考えた中から選ばせる。
10分	③調べ、まとめ方の計画をたてるために、教師の事例を聞く。 (事例の内容) ・モンゴルのウランバートル、ポルガンの街の様子を知る。 ・3つの地域のゴミ処理について知る。 ・青年海外協力隊の話を知る。	・課題、課題にした理由、調べた方法、分かったこと、調査したこと、自分で考えたことなど、モンゴルの事例を使って順序を追って説明する。 ・分かりやすいよう、画像を用いる。

10分	④事例の計画を参考に、今後自分はどのような調査をしていくか計画をたてる。	・課題設定の理由、調べる方法、どんなことを調べたいのか詳しく記述させる。
10分	⑤本時の授業の感想を書き、発表する。	

**児童の感想**

- ・モンゴルも日本と同じで昔よりもゴミが増えている事が分かった。自分もゴミを増やさないように心がけたいと思う。
- ・モンゴルのゴミの処理の仕方が地域ごとに違うことがわかって良かった。
- ・モンゴルの都会の道は、ゴミ箱がたくさんあるなと思った。だから、道にもごみがあまり落ちていない。
- ・モンゴルのゴミは外国で作られて輸入しているビンやペットボトルもあるから、日本などの国も間接的にゴミを出していることになったと思った。
- ・モンゴルのゴミは、モンゴルの人だけではなく、観光客など地球の人が関わっていることが分かった。

**3 時限目：【貧困のサイクルから考える自分にできる国際協力】**

時間	学習内容	指導上の留意点 ☆ねらいとする価値
導入 15分	①モンゴルの子どもの写真を見せ、一枚ずつ子ども達の印象を発表させてから、2枚の共通点を考える。 (孤児院、ストリートチルドレン)	・第一印象では分からない子ども達の共通点を考えさせる。その後、孤児院の子どもとストリートチルドレンである事を伝える。 ☆世界には様々な環境で暮らす子ども達がいる事を知る。
展開 5分	②この子どもたちにどんな事をしてあげればいいのか考え、意見を言う。 ③孤児院の子ども達の写真や動画を見せる。 ④貧困カードの紹介をする。	・今、子どもたちの中にある支援の方法を整理する。 ・初めて孤児院を知る児童もいるので、写真を見て、イメージをつかませる。 ・なぜ子どもたちがマンホールチルドレンになってしまうのか、一枚ずつ説明を加えながら、サイクルを紹介する。
10分	⑤ストリートチルドレンへの支援の方法を考え、紙に書きこむ。	・サイクルをどこで断ち切るか、それにはどのような方法があるのかを班で考えさせる。
5分	⑥班で考えた支援の方法を発表する。 	・発表後、出た意見を整理し、事前に聞いた支援の方法と変わったところを取り上げる。 ☆物だけでなく、人を育てる支援があることに気づく。 ☆見て見ぬふりをせず、自分達で考えることが、国際協力へと繋がっていく事を実感する。
まとめ 5分	⑦孤児院で働く協力隊の写真を見せ、子ども達の望んでいることの話をする。	・JICA、協力隊の仕事について紹介をする。 ☆実際に日本人が働いている様子、支援は物だけではなく愛情や気持ちが大切だと思っていることを聞き、支援の方法について考える。
5分	⑧今日の授業の感想を書き、発表する。	

**児童の考えた「貧困のサイクルを断ち切る方法」**

- ・親切な人が育てる。・何歳までいてもいいように、孤児院のお金が無くなったら、寄付をする。
- ・卒業までに仕事を決めてもらう。・就職できた人から卒業する。・モンゴルの仕事を増やす。
- ・アルコールをなくす募金を頼む。・赤ちゃんを産まない。・親が逃げない。・ちゃんと育てる。

**授業の感想**

- ・ぼくは、モンゴルの子ども達が一番ほしいのは「物」だと思っていました。でも、本当の一番ほしいのは「物」じゃなくて「愛情」だと聞いた時はびっくりしました。
- ・モンゴルにはあまり会社がないので就職できず、路上生活になってしまっている人がいっぱいいる事を聞いて、もっと他の国の事も考えたいなと思いました。
- ・協力隊の話聞いて、家族や愛情が必要で、子を育てる親が知らなければならないと思いました。
- ・やっぱり一番ほしいものは家族なんだなあと、家族がいるありがたさが分かった。
- ・生活は貧しかったりするけれど、みんな日本などの子ども達と同じだと僕は思いました。

4次限目：【富の分配から考える自分にできる国際協力】

時間	学習内容	指導上の留意点 ☆ねらいとする価値
導入 10分	①前時の児童の感想を取り上げる。	・前時の学習で感じた自分も困っている人に何かしたいという思いが国際協力の第一歩である事を確認する。
展開 15分	②世界がもし100人の村だったら～富の分布編のワークショップ。 ・移動、層の確認(豊かな層:△、中間:□、貧しい:○) ・飲み物(食べ物)の分配、一人あたりの量の確認 ③地域ごとにどんな気持ちが発表する。 移動(10分) ・栄養状態の確認 ・国の確認(地図) ・日本が属する場所の確認	・なぜ私達日本人が国際協力をするのか食糧を通して考えることを伝える。 ・豊かな層に多くの食糧、貧しく、人数も多い層には少ない食糧である事を確認する。 ・多くの国では国内の貧富の格差が大きく、富によるグループ分けは国単位では決められない事を補足説明する。 ☆日本は食糧の面で裕福な層に入っている事に気づく。
15分	④この不平等を無くすにはどうしたらいいかを考え、発表する。 《児童の反応》 ・輸入しない ・食べ物を分ける ・募金をする ・仕事を増やしてあげる ・無駄をしない	・児童の発表後、国連が支援している食糧の二倍の量を日本で消費していること、日本は自給率が低いことに触れ、この問題を解決していくためには、日本人の私達一人一人が意識し、行動することの大切さを実感させる。 ☆身近な生活を見直す事も国際協力であることに気づく。

世界に起きている問題はたくさんあり、今回の学習はほんの一部である。これから大人になるまでに勉強していく過程でそれらの問題を知った時、日本にいる自分が変わらないと解決に近づかないこと、今自分が何かしたいと思っているこの気持ちを思い出してほしいという願いを話し、今回の授業実践を終わりにした。

【4】 授業実践を終えて

授業を終えて一番感じる事は、実際に教師が体験した事だと児童への伝わり方が全然違うという事です。本やテレビで聞いたのではなく、実際に見た、会った事なので児童もより身近な事として興味を持ったようです。

授業前と授業後で児童の様子が大きく変わった事が2つあります。1つ目は、普通の授業でも外国が出てくると敏感に反応するようになり、特にモンゴルが出てくるととても興味を持つようになりました。

2つ目は、給食の食べ残しが無くなる、そのために声をかけ合う、学校で取り組んでいるペットボトルの蓋集めを意欲的にやるなど行動に表れ、それを続けて頑張っていることです。

今回の授業が子ども達の心に少しでも残り、今後子ども達が世界の国々や人々について興味を広げ、世界と関わっていきたくと思う一つのきっかけになってほしいと願っています。また、私自身も今後国際理解という視点を持ち続け、子ども達に伝えられるような経験を積み、学び続けていきたいと思っています。

【5】 参考文献(引用文献・参考資料)

- 『新・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら』 開発教育協会 2003
- 『地球の食卓』 ピーター・メンツェル+フェイ ス・ダルーシオ TOTO出版 2006
- 『世界の食料』 JICA地球ひろば 2009
- 『NGOゆいまーるハミングバース』

<http://yuimar.org/manhole-children/newproblems/> (2009/8/23 アクセス)

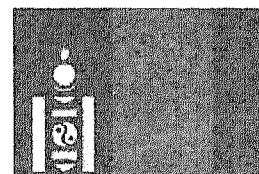
**(6) 使用教材**

1 時限目：【日本とモンゴルの違いと同じ】で使用した表

ゲル：遊牧民家族の一日の様子			
時間	おじいちゃん	おばあちゃん	パティカ(孫)
13:00	昼ご飯の手伝い	昼ご飯作り	お昼ご飯の手伝い
14:00	昼ご飯。近くの家族も遊びに来てみんなでおしゃべり		
16:00	乗馬の準備	夕飯のめんをこねる	乗馬後トランプで遊ぶ
18:00	まきわり	夕食の準備(台所)	牛の乳しぼり
19:00	夕食		
20:00	乳しぼり		
	馬をつれて草を食べに行く	皿洗い	馬をつれて草を食べに行く
21:00	たばこでいっぷくする	バター作り	友達とバスケをして遊ぶ
22:00	おばあちゃんの家事が終わるのを待ってからお酒を飲む。孫は23:00に家に帰ってくる		
23:30	寝る		
6:00	馬にえさをあげる だんろの掃除	ちちしぼり	ちちしぼり
8:00	掃除	髪などの身だしなみを整える 朝食の準備	朝食作りのお手伝い
9:00	朝食：パン、魚の缶詰、クッキー、しぼりたてのミルク		
	バター作り	バター作り	草原で草を食べてる馬を呼びに行く
10:00			乗馬

## 様々な国や地域、多様な文化や生活様式について知る

- 担当教科：社会科
- 実践教科：社会科
- 時間数：2時間
- 対象：中学1年生
- 対象人数：40名



Mongolia

埼玉県

日坂 修

さいたま市立大砂土中学校

### 〔1〕授業実践のテーマ・目的

- ・世界には様々な国や地域があり、そこには多様な文化、生活様式があるということを知るとともに、なぜそのような違いが生まれるのかを考える。
- ・国や地域、さらには人間同士のつながりにおいて、何が最も大切なのかを考える。
- ・自分の気持ちや考えを、言葉を使って表現する力をつける。

### 〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	<b>【曲を聴きイメージ画を描く】</b> ・曲を聴き、その背景を想像し、絵を使ってそのときの情景や自分の気持ちを表現する。	・沖縄の子守歌を聴き、その曲から感じ取れた情景を、絵にしていく。 ・絵を使って、自分がこの曲から感じたことを、言葉を使ってわかりやすくクラスの友だちに説明する。	・三線 ・沖縄の子守歌（神童） ・色鉛筆、クレヨン ・A4版 画用紙
2	<b>【様々な国や地域、多様な文化や生活様式について知る】</b> ・歌われている曲の国・地域について知る。 ・彼女（写真1-1）の生活について知る。 ・「彼女の悩みは何だろう？」 ・「それが本当の悩みかな？」 ・「わたしたちはどうか変わっていったらいいの？」	・Ayany shuvuu（渡り鳥） （モンゴルで最もポピュラーな曲）を聴きイメージ画を描く。 ・この曲が歌われている国を確認する。 ・そこで生活について触れる。 ・そこで生活している人たちの悩みを推測し、班ごとに発表させる。 ・「それが本当の悩みなのか」ということに気づかせる。 ・私たちは、彼らと「どのように関わっていったらいいの？」ということを考えさせる。	・Ayany shuvuu（渡り鳥） ・ゲルステイでお世話になった家族や、その生活様子を表した写真 ・世界地図 ・色鉛筆、クレヨン ・A4版 画用紙

### 〔3〕授業の詳細

#### 1 時限目：【曲を聴きイメージ画を描く】

\* 2 時限目の授業がより意欲的に、またスムーズに行えるようにするための事前授業という位置づけで行った。

- ・沖縄の子守歌「董神」を聴かせた。（方言のまま歌っているので、歌詞はよくわからない）
- ・この曲から感じたことを絵に描いていった。（20

分程度、曲は繰り返し流す）

- ・机間巡視をし、視点の違う絵を4枚選び、黒板に貼った。
- ・それぞれの絵についての説明をさせた。
- ・この曲は沖縄の子守歌であることを紹介した。（教師の三線演奏を含む）
- ・この曲から「どんなことを感じたか」をできるだけ多くの生徒に発表させた。
- ・次の時間はまた違う曲を聴いて絵を描いてみようということを予告。

**2 時限目：【様々な国や地域、多様な文化や生活様式について知る】**

- ・1時限目と同様に曲を聴かせてイメージ画を描かせた。(20分程度)  
(イメージ画は、前回やっているのでスムーズに行えた。また生徒たちも今日はどんな曲なのか楽しみにしていた。)
- ・曲の感じからして「中国」「東南アジア」「韓国」などという予想を立てている生徒が多かった。
- ・この曲が歌われている国を、掛け図(アジアの地図)を使って確認した。 → モンゴル
- ・「今日はこの曲が歌われている国の、一人の女の子の生活について考えていこう」とテーマを示した。  
資料写真 1-1 を見せ、女の子の簡単な紹介をする。(「カナエ」ちゃん みんなと同じ歳)



1-1 ゲルで生活している少女

- ・「彼女は何をしているのか？」 (写真1-2、1-3の一部を隠し、隠された部分を考えさせた)



1-2 少女の仕事①



1-3 少女の仕事②

みんなと同じ歳なのに、毎日大変な仕事をしている事を伝えた。

- ・彼女の家族や家、食事などについて、黒板に写真を貼りながら説明していった。

(写真1-4~3-3 ※[6]使用教材を参照)

日本の中学校1年生の生活とは全然違うと言うことに気づかせた。

- ・「彼女の悩んで何だろう？」と質問し、班ごとに1つ、黒板に書かせた。

- |     |                |
|-----|----------------|
| 1 班 | 都会に住みたい        |
| 2 班 | 学校へ行って友達をつくりたい |
| 3 班 | 学校に行けない        |
| 4 班 | 友達と遊べない        |
| 5 班 | 同じ年頃の友達がいない    |
| 6 班 | 毎日同じ生活で飽きた     |

- ・「本当にそれが彼女の悩みなのだろうか？」
- ・「彼女の本当の悩み」を知るためにはどうしたらいいのだろうか。
- ・「彼女の本当の悩み」がわかったとしたら、私たちはどうしてあげたらいいのだろうか？
- ・この授業ではこれ以上深くは触れず、問題提起だけをして終わった。

**【4】授業実践を終えて**

「今の子どもたちに欠けているのは、柔軟な発想と他の人と関わっていくためのコミュニケーション能力」。私自身、日頃からそのようなことを感じていたので今回のような授業を行いました。

「曲を聴いてイメージ画を描く」ということに、生徒たちはとても興味を示してくれました。1時限目は何を描いていいのかわからなかった生徒も、「次はいつやるの?」「どんな曲?」と楽しみにしてくれていました。また、自分の描いた絵を、自分の言葉で伝えるということの難しさを実感し、言葉の大切さを知ることができたと思います。

この授業は、社会科の「世界の国々」という単元としておこなった授業です。モンゴルという国を教えるというよりも、モンゴルという国を通して、世界には様々な国、地域があるということを知って欲



しいと思いました。また、「自分にとってあたりまえだと思っていることが、他の人にとってあたりまえとは限らない」ということにも気付いてほしいと思いました。「彼女の本当の悩みは？」という問いに対し、各班で出した答えが正解なのかどうかは、私たちにはわかりません。「彼女の本当の悩み」を知るためには、彼女と会い、話をするにより初

めてわかるのだと思います。国と国との関係も、人と人との関係と同じように、まず顔と顔を合わせ、話し合っていかななくてはいけないのだと考えています。これから、国際社会にはばたいていく子どもたちに、話し合うことの大切さをわかってもらえればと思い、この授業を実践しました。

### (5) 参考文献 (引用文献・参考資料)

- 沖縄の子守歌 『童神』 古謝美佐子 夏川りみ
- 『モンゴルからの風2 ゴビのひびき』

演奏：ドルノゴビ県立音楽ドラマサラン・フー Ayany shuvuu (渡り鳥)

### (6) 使用教材

#### 写真資料

##### 1 ゲルで生活している人々



1-4 少年の仕事

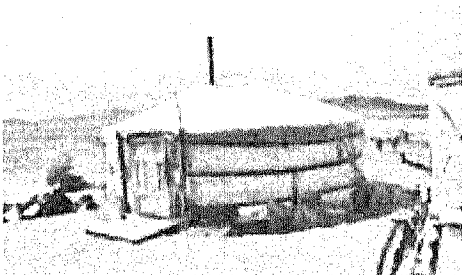


1-5 ゲルの子どもたち



1-6 ゲルでお世話になった方々

##### 2 ゲルとゲルの中の様子



2-1 ゲル



2-2 ゲルの中①



2-3 ゲルの中②

##### 3 食事



3-1 羊の肉を干す



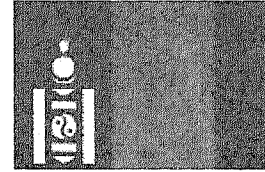
3-2 ゲルの食事①



3-3 ゲルの食事②



# 「人」からつながり、国際協調を考える



Mongolia

谷津 勇太

久喜市立久喜中学校

埼玉県

- 担当教科：理科
- 実践教科：総合的な学習の時間
- 時間数：2時間（8、9時間目）
- 対象：中学2年生
- 対象人数：183名

## 〔1〕授業実践のテーマ・目的

- ・モンゴルで関わった「人」を通して、「人と人のつながり」の大切さを考えさせる。
- ・支援の在り方を考えさせる活動を通して、相手の立場を思いやった行動について考えさせる。

## 〔2〕授業の構成

1・2 時限目：【世界の国々を知ろう】

一昨年度、昨年度の教師海外研修（研修国：ベトナム）に参加した本校教員による授業。「国際理解」についての初めての授業だったため、興味・関心を高めることを目的にしていた。

3～7 時限目：【世界で活躍する方の話を聞こう】

外部講師を招き、海外での活動したときに感じたやりがいや苦勞、活動した国の基礎情報を話していただき、生徒の興味関心を高めるとともに外国について学んだ。

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
8	【モンゴルを通して世界を考えよう】	①「世界に目が向いた度は？」 ②ワークショップ 「世界が100人の村だったら」 ・行動カードを配布し、それぞれのテーマに分かれ、世界の現状を実感し、理解する。 ③モンゴルの子どもたちの写真から考えよう ④ビデオ「モンゴルマンホールチルドレン～光を求めて～」(10分間)	①行動カード ②写真2枚 ③ビデオ「モンゴルマンホールチルドレン～光を求めて～」
9	【モンゴルを通して世界を考えよう】	①貧困の輪(マンホールチルドレンVer.) ・マンホールチルドレンが生まれる連鎖を止める方法を考えさせる。 ②モンゴルクイズ ・モンゴルに関するクイズを通してモンゴルの基礎情報を紹介 ③モンゴルで感じたこと ・モンゴルで出会った「人」に焦点を当てたプレゼンテーションを紹介する ④モンゴルで活躍する日本人からのメッセージ	①ワークシート ②プレゼンテーションワークシート ③プレゼンテーション

### (3) 授業の詳細

#### 8・9 時限目：【モンゴルを通して世界を考えよう】

8・9 時限目は 2 時間続きの授業として実施した。

##### ①「世界に目が向いた度は？」

これまでの総合的な学習の時間の学習で、自分自身がどれくらい世界について学びたい状態になっているかを「0～100」の数字で表させた。その後、何人かの生徒に意見を聞き、自分の「世界に目が向いた度」を発表させ、その数字を選んだ理由を聞いた。

これまでの授業を生徒がどのように捉えていたかを確認するとともに、世界に目が向いた度を向上させることを今日の目的とすることで、授業の導入とした。

##### 生徒の意見の一例

目が向いた度…43 理由：今までより海外のことに興味を持ったが、自分で調べるほどではない。  
 目が向いた度…100 理由：出前授業を聞いて、前よりも外国のことを知ったから。

##### ②ワークショップ「世界がもし 100 人の村だったら」

生世界の現状を体感的に理解させるための活動を行った。

配布された行動カードに従って、4 つのテーマについて各グループに分かれた。行動カードは「世界がもし 100 人の村だったら」のデータを対象クラス（3 クラス 114 人、2 クラス 69 人）の人数で計算し直して使用した。



##### I 世界の大陸（地域）ごとに分かれてみよう

	100 人村	1,2,3 組 (114 人)	4,5 組 (69 人)	記号
アジアの人	61 人 (1.9 人)	69 人 (2 人)	42 人 (1 人)	A
アフリカの人	13 人	15 人	9 人	B
南北アメリカの人	13 人	15 人	9 人	C
ヨーロッパの人	12 人	14 人	8 人	D
南太平洋の人	1 人	1 人	1 人	E

##### II 年収と食事

	100 人村	1,2,3 組 (114 人)	4,5 組 (69 人)	記号
110 万円以上 (日本 360 万) いろいろなものを食べている	16 人	18 人	11 人	あ
64 万円きちんと食べている	43 人	49 人	30 人	い
8 万円以下ときどきしか食べていない	41 人	47 人	28 人	う

##### III 栄養状態

	100 人村	1,2,3 組 (114 人)	4,5 組 (69 人)	記号
栄養十分	20 人	23 人	14 人	ア
死にそう	1 人	1 人	1 人	イ
太りすぎ	15 人	17 人	10 人	ウ
普通	64 人	73 人	44 人	エ

##### IV 中学校に通っているか (世界の子どもが 100 人だったら)

	100 人村	1,2,3 組 (114 人)	4,5 組 (69 人)	記号
通っている (卒業できる)	20 人	23 人	14 人	a
中退してしまう	20 人	23 人	14 人	b
初めから通っていない	60 人	68 人	41 人	c

**生徒の意見**

- ・ いっぱい稼いでいてよかった
- ・ これでは生きていけない
- ・ 卒業できてよかった
- ・ 110万円では少ない→(周りを見て) ホッとした
- ・ 差があるのはしかたないのではないか
- ・ 悲しい、(栄養不足、死にそうになった人は) かわいそう。

**③モンゴルの写真から考えよう**

**【参考資料①ワークシート】**

モンゴルで撮影した「国立孤児院で生活する2人の少女」の写真と「ウランバートル市内のストリートチルドレン」の写真を使いフォトランゲージ手法を用いて写真を示した。

「モンゴルの子どもたちの写真です。2枚の写真からどんなことを感じたり、考えたりしましたか。」

**生徒の意見**

**「国立孤児院で生活する2人の少女」の写真について**

- ・ 元気がよさそう    ・ 楽しそう
- ・ ご飯などもいっぱい食べて豊かな生活をしていそう
- ・ 私たちと同じような生活をしていそう(衣食住に困っていない)    ・ 学校に通っている

**「ウランバートル市内のストリートチルドレン」**

- ・ 元気がなさそう    ・ 疲れているように見える
- ・ 貧しそう    ・ 不衛生な感じがする
- ・ お腹がすいていて動くこともできなそう

生徒の意見を発表させた後、それぞれの写真が「国立孤児院で生活する2人の少女」、「ウランバートル市内のストリートチルドレン」の写真であることを伝えた。「国立孤児院で生活する2人の少女」たちの表情や服装などからは孤児院で生活している子どもたちと想像できなかつたため、驚きが大きかつたようである。

**④ビデオ**

**「モンゴルマンホールチルドレン～光を求めて～」**

③からモンゴルのマンホールチルドレンへ話をつなげるために、マンホールチルドレンについてのビデオを視聴した。生徒もマンホールチルドレンが生まれた経緯とその生活環境についてを大まかに捉えることができた。

**9時限目：【モンゴルを通して世界を考えよう】**

**①貧困の輪 (マンホールチルドレンVer.)**

NGO「ゆいまーるハミングバース」のWebサイトに掲載されている、マンホールチルドレンが生まれる貧困の輪を使って、連鎖を止めるための方法を考えさせた。

**生徒の意見**

- ・ 公共工事を政府が行って、失業者を減らすようにする。
- ・ 孤児院で、就職できるように勉強したり、資格をとったりできるようにする。
- ・ 酒税を高くして、増えた税収で公務員をたくさん雇う。
- ・ 孤児院をたくさんつくって、人手が足りないところに失業者の人たちを雇う。

生徒の意見を実行するために必要なものを生徒に考えさせ、国際的な支援として必要な「モノ、ヒト、カネ」につなげた。そこから、これまでの学習の出前授業で話を聞いた方々が支援に必要な「ヒト」であったことを思い起こさせた。

**②モンゴルクイズ【参考資料②】**

モンゴルについてストリートチルドレンでばかりで授業を進めてきたので、モンゴルに対してマイナスの感情だけを抱いたままで授業を終わらせないために、その他のモンゴルについての知識を教師の体験を元にしたクイズを行った。

**③モンゴルで感じたこと**

モンゴルでの研修を通して、「人と人の繋がり・絆」の大切さを感じた。

国際交流も日頃の生活も、すべて人とのつながりなしには語ることはできないということ、プレゼンテーションを提示しながら伝えたようと心がけた。

## 〔4〕授業実践を終えて

国際理解教育・開発教育を行うにあたって生徒の興味・関心をどうやって高めていくかが非常に重要であると感じた。今回、他学年の「総合的な学習の時間」の2時間で授業を行ったが、それまでの学習で興味・関心が高まっている生徒が多かった。その点を上手く活かし、授業中の活動を効果的にし、生徒の考えを深めることができたと感じている。今後の実践では単元の流れを意識して、興味・関心を高めるための単元計画を充実させるための方策と工夫を模索したい。

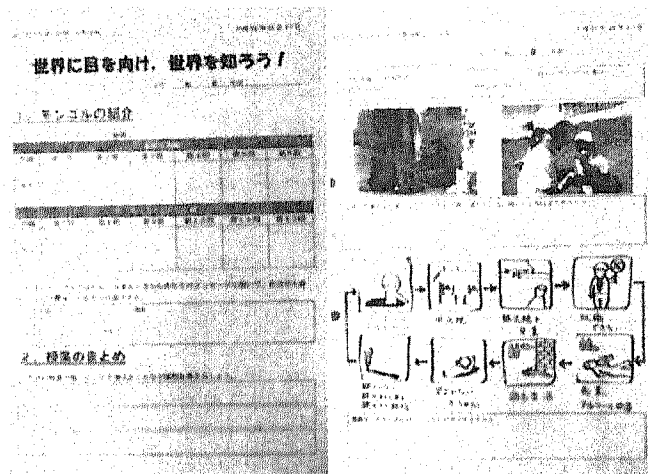
また、今回の教師海外研修では多くの「人」に支えられながらの研修、授業実践となった。研修を通して、青年海外協力隊・シニア海外ボランティアの方々の思いや、ゲルスティで交流を持った家族の温かさ、研修チームのつながりなど「人」の魅力を強く感じられた。国際交流の第一歩は人と人のつながりだと考える。この思いを持って、今後も授業実践を積み重ねていきたい。

## 〔5〕参考文献（引用文献・参考資料）

- 『まんがで学ぶ開発教育 世界と地球の困った現実 飢餓・貧困・環境破壊』  
日本国際飢餓対策機構 明石出版 2002
- 『世界がもし100人の村だったら』 池田香代子・C・ダグラス・スミス マガジンハウス 2001
- 『世界がもし100人の村だったら4〈子ども編〉』 池田香代子 マガジンハウス 2006
- 『新・ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら』 開発教育協会 2006
- 『参加型学習で世界を感じる 開発教育実践ハンドブック』 開発教育協会 2003
- 『NGOゆいまーるハミングバース』  
(<http://yuimar.org/manhole-children/newproblems/>) 2009/12
- ビデオ『モンゴルマンホールチルドレン 光を求めて』 NPO 法人 NGO 沖縄アジアチャイルドサポート

## 〔6〕使用教材

### 【参考資料①ワークシート】

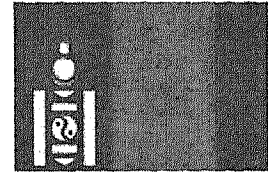


### 【参考資料②モンゴルクイズ】

モンゴルクイズ

- 第1問 どこがモンゴル？(3カ国から選ぶ)
- 第2問 これはモンゴルの国旗でしょうか？  
(スペインの国旗を提示する)
- 第3問 モンゴルの国名は  
「モンゴル人民共和国」である。
- 第4問 モンゴルの首都は？(3都市から選ぶ)
- 第5問 モンゴルのお金は  
「トゥグルグ」である。
- 第6問 モンゴル語で「こんにちは」は、  
「サエンバエノー」という。
- 第7問 モンゴル国内の畜産の数は？
- 第8問 モンゴルの民族衣装の名前は？
- 第9問 モンゴルのゲルで飲まれる  
馬乳酒をつくるときの最後の方法は？
- 第10問 モンゴルに求める外国人旅行者で  
一番多いのはどの国の人？
- 第11問 モンゴルでよく飲まれるミルクティー  
「スーテーツアイ」の味は？
- 第12問 ウランバートルにある英雄スフバートルの  
銅像は誰の方を向いている？

# キャップの先に、広がる世界 ～身近で新鮮な国際協力を実行する～



Mongolia  
井戸 秀紀

- 担当教科：社会
- 実践教科：総合的な学習の時間、学活
- 時間数：8時間
- 対象：中学3年生
- 対象人数：221名（全6学級）

埼玉県

新座市立第三中学校

## 〔1〕授業実践のテーマ・目的


「私は今の生活を当たり前のこととして毎日学校に行き、おしゃれの話をして、高校生活への夢を語り合っています。でも、たまたま私がこの国に生まれてラッキーというだけでいいのでしょうか？」

【教材観】 授業実践前に本校の生徒が書いた「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2009」の作品からは、この他にも自分たちの生活を振り返り、世界の現状を考える意見が数多く見られた。こうした意見は本校生徒に限ったものではなく、日本中の多くの子ども達は、程度の差こそあれ、テレビ等の報道を通して環境や貧困など世界規模の問題に関心を持っている。しかしながら、その問題意識を発信・論議する場面や行動に移す手段を持っておらず、世界と子ども達との間には溝ができている……。

【目的】 したがって、この現状に立ち向かうことこそが国際理解教育の課題であり、それを担う教師の役割は子ども達の問題意識を深化させ、今できる国際協力を経験させることで、世界との距離を少しでも縮めていくことだと私は考え、これを本実践の最大の目的とした。

【テーマ】 そこで、本実践では「身近・新鮮・具体的」なテーマを用いた。それは「ペットボトルのキャップ」、「ストリートチルドレン」、「青年海外協力隊」、「ミレニアム開発目標」、「スタンド・アップ」という5つのテーマであり、これらを主軸として私は以下の授業を展開した。

## 〔2〕授業の構成

時限	テーマ、ねらい	方法・内容	使用教材
1	<p><b>【国際協力に参加していこう!】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットボトルのキャップ収集が国際協力につながっていることを確認する。</li> <li>・発展途上国の一例としてモンゴルの概要を知り、興味を持つ。</li> <li>・発展途上国を支援するJICAの概要を知る。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(学活)</p>	<p>場所：体育館</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①これまでに全校生徒・地域から収集したペットボトルのキャップ数を発表する。</li> <li>②発展途上国という言葉から連想する国名を書き出し発表する。</li> <li>③モンゴルに関するクイズで発展途上国の一例を知る。</li> <li>④クイズで紹介されたJICA概要説明、PRビデオ鑑賞。</li> </ol>	<p>・ペットボトルのキャップ</p>  <p>・【ワークシート①】</p> <p>・パワーポイント 「モンゴルンルンウルトラクイズ!」</p> <p>・民族衣装(デール)</p> <p>・お茶(スーテーツァイ)</p> <p>・JICAのPRビデオ</p>

2	<p><b>【ストリートチルドレンを救う!】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ストリートチルドレンをうみ出す負の連鎖の原因を考える。</li> <li>・負の連鎖に対する日本からの支援策を論議する。</li> <li>・国際協力の必要性を見出す。</li> </ul> <p>(総合)</p>	<p>場所：各教室</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①モンゴルの孤児院、ストリートチルドレンの説明。負の連鎖の原因と支援策を考えワークシートに書き出す。</li> <li>②班で話し合った策を発表する。</li> <li>③問題解決のためために、国際協力が必要とされていることに気づく。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・孤児院の子どもとストリートチルドレンの写真</li> <li>・負の連鎖カード(8枚)</li> <li>・【ワークシート②】</li> </ul>
3	<p><b>【世界で活躍する日本人!】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界と相互依存の関係にある日本の現状を理解する。</li> <li>・青年海外協力隊の概要を知る。</li> <li>・出前講座に対する意識を高め、講師への質問を考える。</li> </ul> <p>(総合)</p>	<p>場所：体育館</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①日本の輸入品をワークシートに書き出して発表し、世界の国々に支えられている現状を確認する。</li> <li>②「青年海外協力隊」を知る。</li> <li>③日本の技術が広く世界で求められている現状を理解する。</li> <li>④出前講座で来校する講師からのビデオレターを受けて、講師への質問を考え、ワークシートに書く。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【ワークシート③】</li> <li>・青年海外協力隊活動紹介ビデオ</li> <li>・青年海外協力隊の主な職種一覧</li> <li>・講師からのビデオレター</li> </ul>
4	<p><b>【異文化を受け入れる!】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モンゴルで活躍するJICA職員からのメッセージを受け、国際協力を身近に感じる。</li> <li>・出前講座の事前学習として全講師の派遣国バングラデシュについての予備知識を得る。</li> </ul> <p>(総合)</p>	<p>場所：各教室</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「JICA職員インタビュー」感想発表。</li> <li>②バングラデシュの位置や人口、面積、気候等の環境を知る。</li> <li>③ベンガル語で自分の名前を書き、バングラデシュの文化を体験する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修メンバーが作成したDVD (モンゴルで撮影した写真と現地JICA職員のインタビューをまとめたもの)</li> <li>・【ワークシート④】</li> </ul>
5	<p><b>【世界規模の問題を考える!】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンドアップという世界規模の活動を知り、それに対する参加の意識を高める。</li> <li>・「ミレニアム開発目標」を知り、世界規模の問題を8つに分類して具体的なイメージを持つ。</li> <li>・世界規模の問題を論議することで、世界に対する問題意識や見識を深める。</li> </ul> <p>(総合)</p>	<p>場所：各教室</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①「STAND UP TAKE ACTION」を知る。</li> <li>②「ミレニアム開発目標」を知る。</li> </ol> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタンドアップ関連ポスター</li> <li>・パンフレット</li> <li>・スタンドアップ宣言文</li> <li>・【ワークシート⑤】</li> </ul>
6	<p><b>【青年海外協力隊の実体験から学ぶ! 出前講座その1】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青年海外協力隊経験者の講師から体験談を聞く。</li> <li>・ワークショップを体験し、バングラデシュの世界に触れる。(学活)</li> </ul>	<p>場所：体育館(1・3・5組の奇数クラス)</p> <p>講師が派遣されていたバングラデシュの話を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・民族衣装 (サロワカミユーズ等)</li> <li>・ベンガル語の指示文 (ワークショップ用)</li> </ul>
7	<p><b>【青年海外協力隊の実体験から学ぶ! 出前講座その2】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青年海外協力隊経験者3名の講師から体験談を聞く。</li> <li>・講師とのコミュニケーションを通して、国際協力に対する見識を深める。</li> </ul> <p>(総合)</p>	<p>場所：各教室(1・3・5組の奇数クラス)</p> <p>※6・7時限は2時間連続の時間割で、体育館と各教室を1時間ずつ、前後半入れ替え制で授業を行った。</p> <p>各講師から国際協力に参加した動機等を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> </ul> 
8	<p><b>【国際協力に参加する!】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座を振り返り、様々な分野で青年海外協力隊が活躍していることを確認する。</li> <li>・「ミレニアム開発目標」に基づいて、自分が今後取り組んで(心掛けて)いくことを考える。</li> <li>・「スタンド・アップ」に参加する。</li> </ul> <p>(総合)</p>	<p>場所：体育館</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①バングラデシュも含めた世界全体で起こっている問題を、8つのミレニアム開発目標に基づいて復習する。</li> <li>②ワークショップを行う。</li> <li>③全体で集合隊形をつくり、「スタンド・アップ」に参加する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント</li> <li>・ミレニアム開発目標のプレート(8つ)</li> <li>・補足説明に使う資料 (フェアトレード商品等)</li> <li>・意思表示カード</li> <li>・模造紙(8枚)</li> <li>・スタンドアップ宣言文</li> </ul>

### (3) 授業の詳細

#### 1 時限目：【国際協力に参加していこう！】

##### ① ペットボトルのキャップ収集

今年度新設したボランティア委員会を中心に、5月から全校を対象に取り組みを始めた。授業では、この時点(9月24日)で合計44,498個を収集し、それが約56人分のワクチン費用に相当すること、年間合計80,000個(100人分のワクチン費用に相当)の目標達成に向けての協力を呼びかけた。

##### ② モンゴルに関する3択クイズ

文化紹介の他に、11問目では火力発電所で活躍するシニア海外ボランティアの活躍を紹介する等、JICAの概要説明につながるようにした。また、クイズの途中、民族衣装を着た同僚の先生が登場する場面や、お茶を試飲する場面等を設定した。

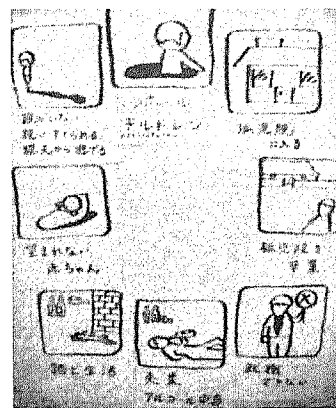
1問	国の地図上の位置	2問	人口
3問	面積	4問	国旗
5問	モンゴル語でこんにちは	6問	モンゴル語でI love you
7問	民族衣装の名前	8問	モンゴルの家の呼び名
9問	お茶の中に入れるもの	10問	輸入に頼る食べ物
11問	これは何発電所だろう	12問	ゴミ処分の仕方
13問	人の足を踏んだら・・・	14問	有名な楽器の名前
15問	現地で有名な日本の歌		

#### 2 時限目：【ストリートチルドレンを救う！】

##### ① ストリートチルドレンをうみ出す負の連鎖

下記ホームページ『NGOゆいまーるハミングバース』内にある「貧困のサイクル」を参照して作った8枚のカードを班ごとに配布し、並び替えさせることでその原因を考えさせた。

里親制度を作るのが  
いいと考えました!



負の連鎖 (8枚のカード)

#### 5 時限目：【世界規模の問題を考える！】

##### ① 「STAND UP TAKE ACTION」

毎年10月17日の世界反貧困デーにあわせて開催され、10月16～18日の期間中に貧困問題を考える世界中の人々が立ちあがり(スタンドアップ)、その人数でギネス記録に挑戦する世界規模の活動である。本授業実践の最終日が10月16日とタイムリーであったため、学年全体で参加できる活動として着目し、ポスターやパンフレット、宣言文等を用いて生徒にも活動の説明を行った。

##### ② 「ミレニアム開発目標」

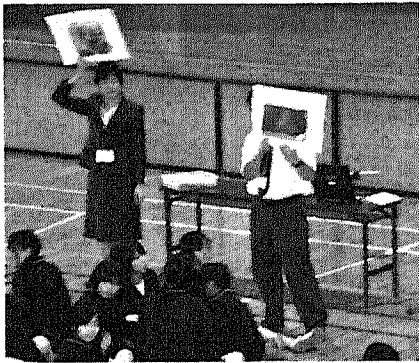
これは2000年に開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言と、1990年代に開催された主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合し、世界の問題解決のために掲げられた8つの目標である。本実践では世界規模の問題を明確にするために以下の8つの目標を使用し、各々がどの問題に関心があるか(もしくは無いか)を考えさせ、班で論議させた。

- 1: とてつもない貧困と飢えをなくそう
- 2: みんなが小学校に通えるようにしよう
- 3: ジェンダーの平等を進めて女性の地位を向上させよう
- 4: 子どもの死亡率を下げよう
- 5: 女性が健康な状態で子どもを産めるようにしよう
- 6: エイズやその他の病気が広がるのを防ごう
- 7: 環境の持続可能性を確保しよう
- 8: 世界の一員として、先進国も責任を果たそう

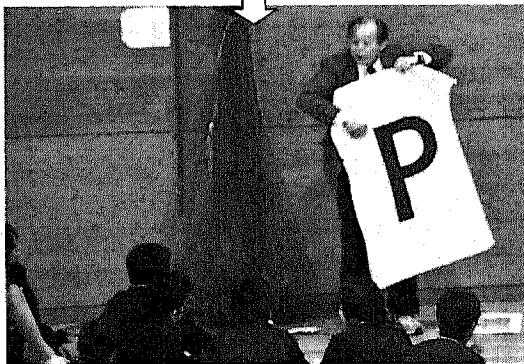


8 時限目：【国際協力に参加する！】

① ワークショップ



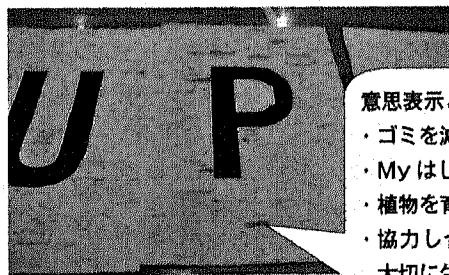
関心のある目標ごとに分かれて移動する（8 か所）。



各目標に関連して、自分ができる国際協力を考えて意思表示カードに書き、それを模造紙に貼る。



模造紙8枚で、それぞれに「STAND UP！」の文字が書かれており、その周囲にカードを貼る。



- 意思表示として…
- ・ゴミを減らす。
  - ・My はしを使う。
  - ・植物を育てる。
  - ・協力し合い、世界平和を大切に生きる。
  - ・女が強くなる。…など

② 「STAND UP TAKE ACTION」

意思表示カードを貼って作り上げた「STAND UP！」の模造紙を置いて学級委員長に宣言文を読ませ、「スタンドアップ！」という掛け声と共に学年全員で立ちあがった。国際協力が、ひとつの学年行事になった。



〔4〕 授業実践を終えて

「先日、近所のスーパーにお願いしてペットボトルのキャップ収集の袋を置かせてもらいましたよ！」と、最後の授業を終えた後に一人の生徒が報告に来た。私は彼女の勇気と行動力に感動し、授業がひとつ実を結んだような喜びを感じた。もちろん、全ての生徒がこうした行動を起こすことは難しい。しかし、キャップに限らずとも、一人でも多くの生徒にとって授業の中で実際に起こした行動（生徒同士の論議や青年海外協力隊OBとの交流、「STAND UP TAKE ACTION」等）が国際協力に参加する第一歩となり、今後世界との距離を縮めるきっかけになればと願っている。

まとめに代えて、7時限目の後に生徒が書いた出前講座の感想文を紹介したい。

「発展途上国に日本とは全然違った生活をしている人々がいるのは、たぶんほとんどの人が知っていたと思います。でも、そういう人たちを助けようと行動できる人は本当にすごいなあと感じました。

ゴミの問題や子どもの問題など、世界にはたくさん問題があることを改めて知って、私も何か行動できることはないか考えさせられました。渡具知さんの発展途上国での活動を聞いて本当におどろきました。言葉がしゃべれなかったら勉強して、自分の意志をしっかりとつらぬいて…。そんな人がもっともっと増えればなと思

いました。世界にはたくさんの方がいて、みんなが豊かな生活をしているわけではないと感じさせられて、世界平和について本気で何かをしななければいけないと思いました。

何でも渡具知さんたち任せではなくて、私たちも何か行動を起こしたいと思いました。」

こうした生徒の思いに応えるべく、次年度以降も「身近・新鮮・具体的」なテーマを用いた授業ができるよう研鑽を重ねたい。また、本実践においては同僚の先生方や講師の方々から多大なご協力を頂いた。今後の実践の中でも、授業に携わる全ての方々への感謝の気持ちを常に大切にしていきたい。

**(5) 参考文献 (引用文献・参考資料)**

- 『エコキャップ推進協会』 (<http://ecocap007.com/>)
- 『世界の子どもにワクチンを 日本委員会』 (<http://www.jcv-jp.org/>) 【以上 1 時限目】
- 『あなたの夢はなんですか？私の夢は大人になるまで生きることです。』 池間哲郎 到知出版 2004
- 『NGO ゆいまーるハミングバーズ』 (<http://yuimar.org/>) 【以上 2 時限目】
- 『JICA 国際協力機構』 (<http://www.jica.go.jp/>) 【3 時限目】
- 『ベンガル語単語集』 ([http://book.geocities.jp/ben\\_nichi/index.htm](http://book.geocities.jp/ben_nichi/index.htm)) 【4 時限目】
- 『STAND UP TAKE ACTION』 (<http://www.standup2015.jp/>)
- 『ミレニアム開発目標』 国連開発計画 (UNDP) 2008 【以上 5、8 時限目】

**(6) 使用教材**

ワークシート①

【ワークシート②】

【ワークシート③】

【ワークシート④】

【ワークシート④裏面】

【ワークシート⑤】